# 合併以降の要望や課題に応え 自然再生や農産物ブランド化など

**市では、新市建設計画に位置付けた、新市の一体性の醸成と均衡ある発展のための事業を着実に進めるほか、合併以降の10年間で新たに生じた課題や、皆さんから寄せられる要望や意見に応え、自然再生の取り組みや農産物のブランド化など、新たな取り組みを行ってきました。**

市では、新市建設計画に位置付けた事業を着実に進める一方で、新たに生じる課題や皆さんからの要望に応え、自然再生の取り組みや農産物のブランド化、防犯防災対策、東日本大震災による放射能問題への対応、市独自の雇用対策、買物弱者対策などを行ってきました。

## 自然と共生するふるさとを未来を担う子どもたちへ

現在、農業と自然が共生する地域づくりを進めている江川地区では、平成5年から、開発事業者と地権者が共同で区画整理による宅地開発を進めていましたが、バブル崩壊の影響で開発業者が撤退し、計画は頓挫していました。

農地の放置や乱開発の恐れがあるため、市では、無秩序な埋め立てなどによる自然破壊を防ぐため、自然保護団体と協力して「自然環境保護対策基本計画」を16年に策定し、計画区域の4割をビオトープ化、残りを宅地開発する予定でした。

しかし、計画区域内の斜面林にサシバ（タカ科）の営巣地が見つかったことから、動植物の保全の観点から再び計画を見直し、全面保護へ施策を大転換しました。

農薬の空中散布を廃止し
替わって玄米黒酢の散布を開始

冬場に水をはっておくことで雑草を生えにくくし、
微生物の繁殖で豊かな土壌になる冬期湛水水田

荒廃していた水田を再生し、市民の方に本格的な無農薬の米づくりを体験いただける農園の整備や周辺樹林地の買収や保全協定の締結を行いました。

一方で、環境に配慮したふるさとづくりを市内全域に拡げるため、一般農家の協力のもと、農薬

### 農産物のブランド化でみんなが笑顔に

黒酢米は農産物直売所「ゆめあぐり野田」と「のだ元気市場」で販売していますが、とても人気があります。安全安心な地元農産物を買い求める消費者に喜んでいただけるし、私たち生産者にとっても高い値段で販売できるので、農産物のブランド化はありがたいです。また、処分に困っていたもみ殻も無料で引き取ってもらえ、有機堆肥として再利用できるのはいいですね。田んぼで見られる生き物の数が年々多くなっていると実感しています。

黒酢米生産者
倉持　滋夫さん